



袋井
名刹

萬松山可睡齋

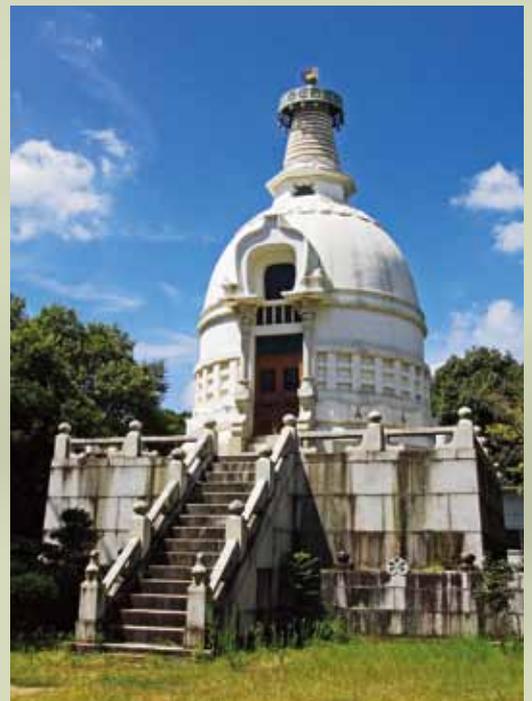
花の名所、徳川家康ゆかりの寺

袋井市久能

萬松山可睡齋は遠州三山のひとつで「おかすい」とも呼ばれる曹洞宗の古刹です。東海道一の禪の修行道場であり、多くの修行僧が集っています。秋葉三尺坊のご神体をまつていることから、秋葉信仰の総本山としても知られています。

11代目の住職が徳川家康と父親を戦乱の中から救い出し助けたことから、家康と親交が深く「可睡齋」の名前も家康が名付けたとも伝わります。

花の寺としても名高く、春はボタン、夏は鷺草、秋には紅葉を楽しむ見物客で賑わいます。



9 可睡齋護国塔 昭和53年3月24日 県指定文化財建造物

高さ17mの鉄筋コンクリート造り、人造石洗出仕上げの円形ドームで、明治44(1911)年の建設。日露戦争の戦死者の霊を祀るためにつくられた。

駐車場(一部有料)。





17 紙本墨書示了然道者法語  昭和45年6月2日
県指定文化財書跡典跡
道元(1200~53年)の弟子で尼僧了然に与えた法語と伝えられる。



48 武田信玄の童の朱印状  昭和57年2月8日
市指定文化財古文書
元龜3(1572)年、武田信玄が遠江に侵攻した際に、寺社を保護する禁制として可睡齋へあてたものである。 **非公開。**



15 梵鐘  昭和45年6月2日
県指定文化財工芸品
この梵鐘は当初、掛川市富部の西宮八王子大明神にあったもので、永正15(1518)年に鑄造されたことが銘文に記されています。総高100.2cm。

